

いこまいか教室フレイルアンケート調査結果追加報告

1 調査目的

住民主体により実施している介護予防教室「いこまいか教室」の参加者に「後期高齢者の質問票」やその他の質問項目などフレイルに関するアンケート調査を行うことで、参加者の生活や健康状態、教室に参加してからの健康意識、生活の変化等の実態を把握し、今後の教室運営に生かすことを目的とする。

2 対象者

「いこまいか教室」22教室に参加する約500名（回収424名分）

地区	西枇杷島	新川	清洲	春日	合計
回答者数	18人	154人	173人	79人	424人

3 調査方法

令和3年12月1日から令和3年12月23日の間に「いこまいか教室」の体力測定と同時アンケート形式で調査を実施した。

4 結果と考察

(1) 年齢構成

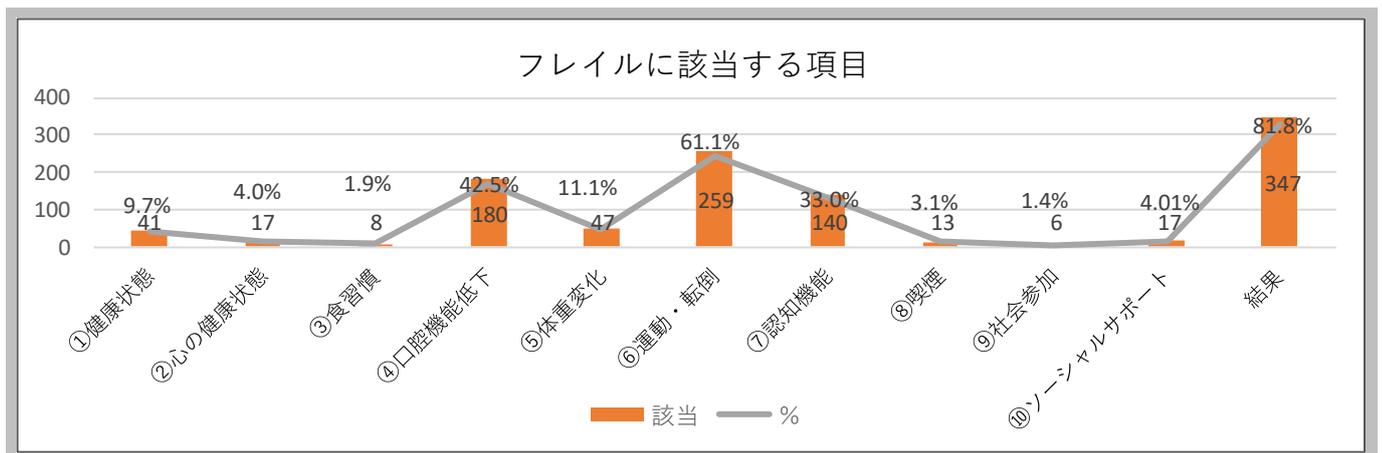
年齢	64歳以下	65～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	合計
人数	4人	13人	231人	165人	11人	424人
割合	0.94%	3.1%	54.5%	38.9%	2.6%	100%

全体の年齢構成は70代が54.5%、80代が38.9%となり、合計93.4%と全体の約9割を占めた。平均は78.0歳。64歳以下は4名で0.9%、90代は11名で2.6%であった。また、最年長者は96歳であった。

(2) フレイルの恐れがある項目

「後期高齢者の質問票」から、全体の81.8%(347名)がフレイルの恐れがある項目に該当した。(図1)各項目別にみると、「運動・転倒」が61.1%(259名)と一番高く、続いて「口腔機能」の42.5%(180名)、「認知機能」33.0%(140名)であった。

図1 アンケート調査結果



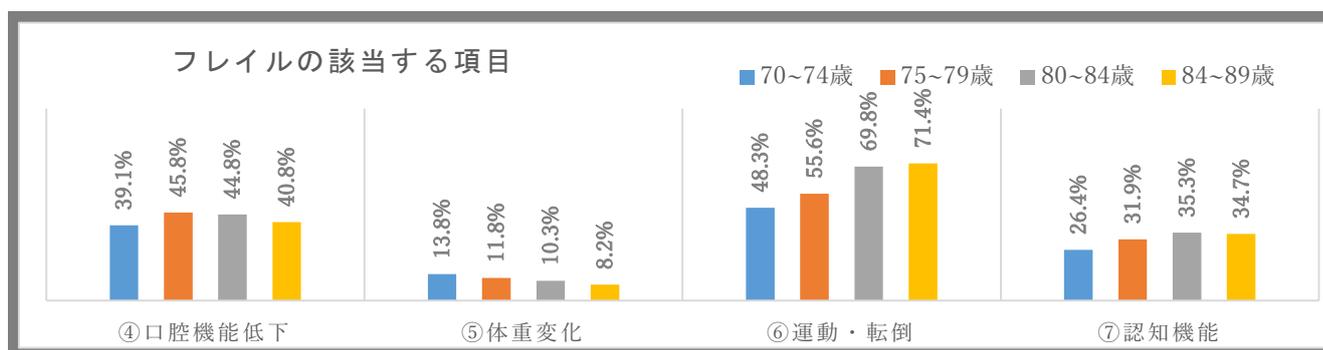
(3) 70歳から89歳の年齢構成

年齢	70～74歳	75～79歳	80～84歳	84～89歳	合計
人数	87人	144人	116人	49人	396人
割合	21.9%	36.4%	29.3%	12.4%	100%

70歳から89歳までを5歳で区切ると75歳から79歳までが36.4%、80歳から84歳までが29.3%であった。

(4) フレイルの恐れがある項目

図2 アンケート調査結果



項目別に多い順は、高齢者全体と同じで「運動・転倒」「口腔機能低下」「認知機能」「体重変化」であった。

「運動・転倒」「認知機能」については、年齢が上がるとフレイルの恐れが高くなった。逆に「体重変化」については、年齢が上がるとフレイルの恐れは低くなった。

表1 フレイルアンケート調査項目（一部抜粋）

類型名	質問	回答	
④ 口腔機能	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか ※さきいか、たくあんなど	1. はい	2. いいえ
	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい	2. いいえ
	歯磨き（入れ歯の手入れ）を毎日していますか	1. はい	2. いいえ
⑤ 体重変化	6カ月間で2～3Kg以上の体重減少がありましたか	1. はい	2. いいえ
⑥ 運動・転倒	以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか	1. はい	2. いいえ
	この1年間に転んだことはありますか	1. はい	2. いいえ
	ウォーキング等の運動を週に1回以上していますか	1. はい	2. いいえ
⑦ 認知機能	周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあるとされますか	1. はい	2. いいえ
	今日が何月何日か分からない時がありますか	1. はい	2. いいえ
	以前はあった関心や興味が失われた	1. はい	2. いいえ
	ささいなことで怒りっぽくなった	1. はい	2. いいえ